

Newsletter No.18

事務局：岩手医科大学緩和医療学科内
〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号

メールアドレス：shinorinsyo.tohoku@gmail.com
ホームページ：https://sites.google.com/site/shinorinsyotohoku/

巻頭言

岩手医科大学 木村祐輔

各地から大雪の知らせが届いた今冬ですが、3月に入り少し寒さも緩んできたようです。東北支部会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

全国的にオミクロン株の感染者数は依然高止まりの状態です。私の住む岩手県は、流行を迎えるのが他の地域よりも遅かったこともあり、今まさに感染者数が増加するフェーズを迎えています。また報道では、ステルス・オミクロン株（BA.2型）の感染拡大も予想され、まだまだ先が見通せない状況が続いています。一方で、恐ろしいニュースが入ってきました。オリンピックの閉会を待っていたかのように、ロシアがウクライナへの侵攻を始めました。TVに映し出される破壊の映像がとても現実には起きていないとは思えません。未曾有の感染拡大に加え、新たな戦禍により人々の生命が脅かされる状況が今後拡大するのでしょうか。不安は尽きませんが、今はただ、コロナ禍も戦禍も1日も早く収束することを祈りつつ、目の前の閉じ逝く生命を丁寧に支え続けたいと思います。

さて、2022年度の東北支部大会ですが、山形県の三友堂病院の皆様にご準備いただきました。今年こそは是非、皆様と直接お会いできれば、と考えておりましたが、諸般の事情を考慮し、大変残念ですが今年もオンライン開催といたしましたVirtualではありますが、年に一度皆様とお会いできる貴重な機会でもありますので、是非、お一人でも多くの方にご参加いただければと思います。

ご多様の毎日をお過ごしのことと思いますが、くれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。



東北支部緩和ケア便り

秋田県

外旭川病院



ホスピス長 松尾直樹さん

外旭川病院は秋田市北部の外旭川地区に1988年に開設され、病床数は241床（療養病棟207床、ホスピスが34床）です。ホスピスは1999年に開設され、13床の2階と21床の5階の2ユニットに分かれています。今年は悪天候が続き、なかなか見ることはできませんが、晴れた日には病室から出羽富士とも呼ばれる鳥海山を眺めることができ、患者さんを元気づけてくれています。現在、医師は4名、看護師32名、介護福祉士7名、メディカルソーシャルワーカー4名、ボランティアコーディネーター1名で稼働しています。入院での緩和ケアのほか、外来通院での症状緩和も行っています。患者さんは若い方からご高齢の方までいらっしゃいますが、高齢化が進んでおり、平均年齢は80歳です。当院の特徴としてボランティアの活動が挙げられます。ボランティアが150名以上登録し活動していますが、現在、感染対策で、ほとんどの活動を中止せざるを得ない状況が続いています。以前は毎日、コーヒーサービスがあり、ボ

ランティア主催の多くの行事や遺族ケアが行われており、患者さんは毎日、忙しいほどでしたが、現在は面会制限もあり、病棟の風景が変わってしまいました。廊下でボランティアとすれ違い挨拶をかわす以前の日常を懐かしく感じます。苦境の中、スタッフはいつも以上に明るさを絶やさず、患者さんと接しており、ホスピスマインドを失わずにいることを再確認し、喜びを感じています。また当院ではボランティアコーディネーターの存在が大きいと感じています。感染対策を行いながら、映画鑑賞会やオンラインの音楽会をコーディネートしたり、病棟の行事の準備に間接的にボランティアが関わっています。コロナ禍が明けた暁には、再びボランティアにより病棟が暖かい雰囲気包まれることを期待しているところです。雪解け、コロナ収束が待ち遠しい外旭川病院のホスピスのご紹介でした。



宮城県

仙台医療センター



独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
緩和ケア内科 高橋通規さん

仙台医療センターは2019年5月に新病院（一般628床、精神32床）に移転しました。これまでの6階建から11階建となり地域のランドマーク的な威容へと変貌しました。救命救急センターは18床から30床に増床となりドクターヘリも運用が開始されました。

緩和ケアチームは、最上階の11階西病棟（全科混合、全室個室の一般病棟）の一角に部屋をいただき活動の拠点としています。11西病棟からの眺めは素晴らしく、晴れた日には仙台湾の水平線を、夜には楽天球場はじめ仙台の夜景が一望できます。

現在、緩和ケアチームは年間約350件の依頼をいただいています。2019年から緩和医2名の体制となり、翌年には緩和ケア内科外来にペインクリニックを標榜し当院かかりつけの患者さん中心に診療しています。医師が増えチーム力アップしたところでしたがコロナ感染拡大し、ワクチン接種、検体採取、来院者の感染スクリーニング、ホテル隔離療養患者の巡回とチームメンバーも時に感染対策の支援で院内協力しています。

おそらく多くの施設共通と思われるが、コロナ禍でいくつかの変化を感じました。中でも面会制限の影響は大きく、家族ケアや病状説明・治療方針決定の際の障碍です。また、患者さんは会いたい時にご家族と会うことができず以前より不安やストレスを強く受けていると感じます。そのためか、多くの患者さん・ご家族が在宅緩和ケアを希望されるようになりました。会議や勉強会はオンラインが主流となり当院の緩和ケア勉強会もオンライン中心の開催、院内スタッフに対してオンデマンド配信へ切り替えました。当初は機材の扱いや操作など、使いこなすのに苦労しましたがようやく慣れてきたところです。コロナ感染により人と人の“つながり”が分断されがちな今こそ、新しいつながりの中で緩和ケアを拡げいければと思っています。



仙台市内の夜景

岩手県

岩手県立中部病院

岩手県立中部病院 緩和ケア科 星野彰さん



当院は岩手県の中部地域（花巻、北上、遠野、西和賀）のがん診療連携拠点病院として、平成21年に開院しました。私たちの目標は「いつでもどこでも緩和ケア」。がんの診断を受けた時から化学療法中、がん進行期まで、支援を希望する患者さんには専門のナースがサポートを行い、患者家族支援センター、がん患者サロン、緩和ケア外来を利用いただいています。自宅での療養を望むかたには在宅チームや介護保険の仕組みを早めに紹介して、住み慣れた家で安心して暮らせるような支援を心がけています。緩和ケア病棟は24床。設計段階では6階にできる予定でしたが、8,000人の市民の署名が大きな力になって地上1階に建設されました。各部屋にベランダがあって自然の風、土の匂いを感じることができます。庭にはボランティアが耕す畑があって春にはイチゴが食べ放題、秋には里芋で作った芋の子汁がふるまわれます。新型コロナの影響で活動は制限されていますが、イベント、喫茶、音楽、お花、アロマ、花壇などのボランティアが生活の香りを運んでくれます。病棟スタッフは、看護師18名、看護補助3名、クラーク1名、さらに院内の様々な職種や地域の歯科医師、臨床宗教師も応援に来てくれています。医師は常勤2名のほかに岩手医大や地域の診療所から診療応援をいただき、さらに院内の若手医師や研修医も加わって日々学びあいながら診療を行っています。痛みのコントロールに難渋するかたには神経ブロックや放射線治療も積極的に検討して症状緩和をはかり、体調が落ち着いたかたには自宅や施設での療養をお勧めして退院支援も行っています。年をとってもがんになっても安心して暮らせる街をめざして、私たちはこれからも患者さんと家族ひとりひとりを丁寧に支え続けていきたいと思っています。



岩手県

岩手医科大学附属病院

岩手医科大学附属病院 緩和ケア科 鴻巣正史



岩手医科大学は「医療人たる前に、誠の人間たれ」を学是として“全人的地域総合医療”を理想に掲げ歩んで参りました。2019年9月の附属病院新築移転を機に、本学の理念を表す一つの形として緩和ケア病棟を新設致しました。最後まで当院における診療を望まれる患者さんやご家族の、あるいは地域の方々の希望に沿うためである事はもちろんですが、医学部・歯学部・看護学部・薬学部の4学部を有する医療系総合大学として、医学を志す若人たちに「生と死をみつめる全人的医療」を深く学ぶ場となることの願いも込めて開設致しました。

当院の緩和ケア病棟は、院内病棟型として最上階の10階に25床（一般病床17、特床8）を有しております。現在、常勤医師3名、看護師25名、看護助手1名、医療事務1名のスタッフと院内の多くの方々の支えにより、患者さんお一人お一人を最期まで支えるホスピス型の病棟運営を行なっています。年間約240名の患者さんが新たに入院され、そのうち約8割は同じ院内の他診療科に通院や入院されていた方々にご利用頂いております。岩手県の中央部である盛岡地域の患者さんの利用が最も多くはありますが、沿岸地域も含め県内全域から緩和ケア病棟をご利用頂いているのも当院の特徴です。最近の緩和ケア病棟運営においては、新型コロナウイルス感染対策のためにご家族との面会やイベント運営などに苦慮する面が多々ありますが、感染対策に工夫を凝らしつつご家族の面会への対応や、病院栄養部など他部署との協働によりイベント開催を継続しております。春にはお花見や端午の節句、夏には七夕、秋にはお月見、冬にはお正月など季節を感じられる病棟の飾りやお菓子を準備して患者さんやご家族に振舞わせて頂き、皆さんから大変に好評を頂いております。開設から約2年半が経過し、まだまだ駆け出しの緩和ケア病棟ではありますが、患者さんやご家族の思いに応えられるよう、これからも日々、丁寧なケアの実践に勤めていきたいと思っております。



2021年度活動計画と予算案

◆2021年度活動計画

月 日	内 容	場 所
令和3年5月29日	東北支部総会（主催：坪井病院）	Web開催
令和3年10月	ニュースレターNo.17発行	
令和4年3月	ニュースレターNo.18発行	

◆2021年度予算案

収入の部			支出の部		
	前年度繰越金	917,021円	通信費		50,000円
	入会金（1,000円×5名）	5,000円	印刷費		10,000円
	年会費（1,000円×142名）	142,000円	支部機関紙発行費（年1回）		40,000円
	支部活動援助金	200,000円	支部会開催費用		0円
	その他（利息預金）	35円	一般事務消耗品費		12,000円
	収入合計	1,264,056円	次年度繰越金		1,152,056円
			支出合計		1,264,056円
			残額		0円

日本死の臨床研究会東北支部 世話人

●支部長 ○監事

青森県

馬場 祥子 医療法人ときわ会ときわ会病院
小枝 淳一 生協さくら病院
蛭名 正子 医療法人ときわ会ときわ会病院
太田 緑 みどりの風訪問看護ステーション

秋田県

○丹羽 誠 市立横手病院
嘉藤 茂 外旭川病院ホスピス
松尾 直樹 外旭川病院ホスピス
石川 千夏 市立秋田総合病院

岩手県

●木村 祐輔 岩手医科大学緩和医療学科
望月 泉 八幡平市国民健康保険西根病院
長澤 昌子 岩手医科大学高度看護研修センター
○星野 彰 岩手県立中部病院
蛇口 真理子 岩手県立胆沢病院

山形県

大石 玲児 三友堂病院
斎藤 綾子 寒河江市立病院
酒井 道子 山形のターミナルケアを考える会事務局
戸田 智子 訪問看護ステーションきらり
神谷 浩平 一般社団法人MY wells地域ケア工房

宮城県

亀岡 祐一 光が丘スペルマン病院
牛坂 朋美 光ヶ丘スペルマン病院
武田 郁央 宮城県立がんセンター
高橋 通規 国立病院機構仙台医療センター

福島県

今田 かおる 医療法人 社団 敬天会 小川医院
千葉 久美子 一般財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院

年会費について

2021年・2022年度の会費請求書を同封しております。東北支部事務局口座に直接お振込み下さい。
（昨年度より口座を岩手銀行に変更致しました）

口座名義：日本死の臨床研究会東北支部
岩手銀行 矢巾支店 普通 2158984

日本死の臨床研究会 東北支部事務局

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号
岩手医科大学 緩和医療学科 木村（事務担当・川村）
電話 019-613-7111 FAX 019-907-8468
E-mail shinorinsyo.tohoku@gmail.com